

算命学中庸

【初年】 60 回目

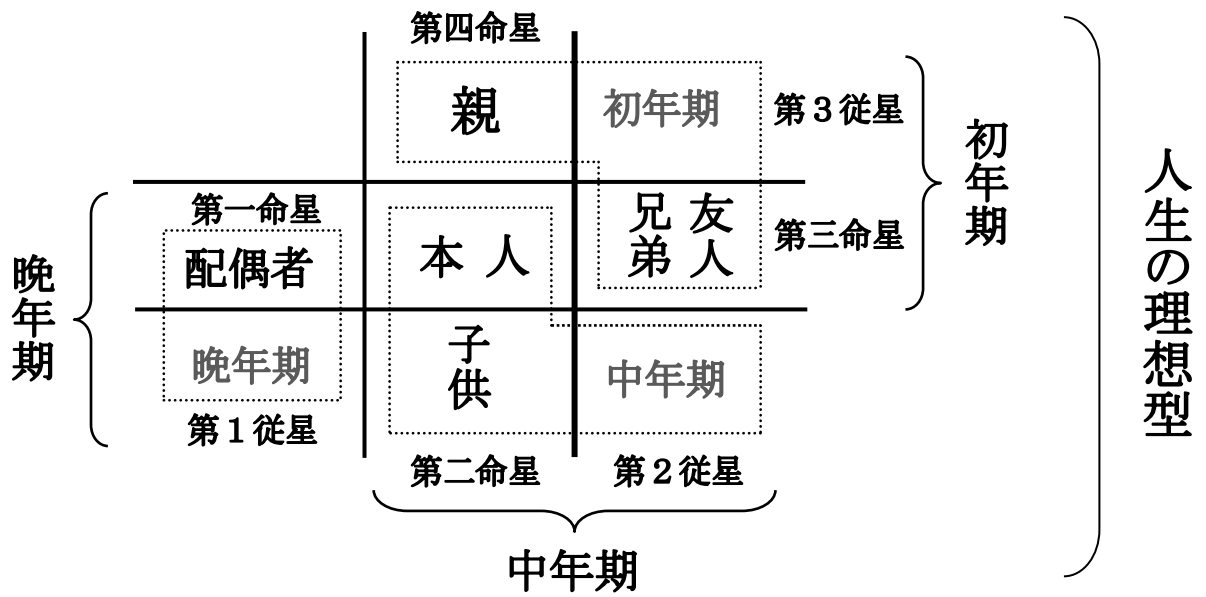
60 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺論】 (6)

【初年】 60 回目 【天中殺論 (6)】 「陽占天中殺」 01

□ 陽占天中殺 (ようせんてんちゅうさつ)

陰占と陽占の関係を知っておくことが大切です。



人体図上で「年干支」の星というのは、第四命星、第3従星、第三命星の場所にでてきます。

	第四命星	第3従星
		第三命星

「月干支」は、主星、第二命星、第2従星の場所にでてきます。

(日支)の星は、第一命星、第1従星の場所にでてきます。これらは三分法の考えにもなるわけです。

☞ 人体図上で中殺を受けるのが陽占天中殺です。

「生年中殺」は年干支の陽占の場所が中殺されます。

	第四命星	第3従星
第一命星	主星	第三命星
第1従星	第二命星	第2従星

「生日中殺」は、第一命星と第一従星の場所にてでている星が中殺を受けます。

	第四命星	第3従星
第一命星	主星	第三命星
第1従星	第二命星	第2従星

中殺には「不完全」「意図しない状態」「不自然」という意味があります。

このような意味合いを、十大主星のそれぞれの星のなかに取り込んでいったものを、「じゅっだいしゅせいてんちゅうきつ十大主星天中殺」といいます。

十大主星中殺

貫索星中殺

頑固 ⇒ 一貫性がなくなる、一貫性がなくなりながら頑固を發揮する。そのため、まわりの人が振りまわされる。

好かれる場合と、嫌われる場合がはっきり分かれる。

独立 ⇒ 独立独歩の生き方をすると波乱が多くなる。

人物 ⇒ 兄弟・友人中殺。

石門星中殺

協調性 ⇒ 協調性が本人の意図しない方向へ向かいやすい。交際を望まない人との付き合いが多くなり、望む人との付き合いが疎遠そえんになっていく。

いずれにしても、人間関係での苦勞が多くなる。

それゆえに、人間関係で苦勞して当たり前という気持ちが必要である。

人物 ⇒ 兄弟・友人中殺

鳳閣星中殺

のんびり ⇒ のんびりしてはいけないときにのんびりし、のんびりして良いときに気ぜわしくなる。

本人が自然に・素直に生きようとすればするほど、不自然な態度・行動となる。

それは仕方ないとして、気にしないことです。

人物 ⇒ 子供・目下中殺

調舒星中殺

空想力 ⇒ ^{わく}枠が外れ、自由な空想となる。空想が勝手にどんどん広がるため、現実離れした精神状態になりやすく、現実と空想との差が大きくなりすぎると、ノイローゼなどにつながる。

神経質 ⇒ 感情を自制しにくくなる。感情をだすまいとすると出てしまい、だそうとすると出なくなる。

人物 ⇒ 子供・目下中殺

〔鳳閣星・調野星中殺〕は寿命中殺・未来中殺などの意もある。

禄存星中殺

愛情 ⇒ 魅力が本人の意図しない出方となるため、好きでない人から好かれ、好きな人には気持ちが伝わりにくい。そのため好きでない人との結婚になりやすい。

人物 ⇒ [父親中殺] 父親は本来・家長であるため、父の運気は直接家系の運気に影響を及ぼす。そのため父の恩恵を受けられないことは、家系そのものが下りのときに生まれてきたのか、また、もし恩恵を受けた場合は本人の宿命が生きてこない。そのいずれかとなる。

司禄星中殺

家庭 ⇒ 不安定な家庭となる。具体的には配偶者が役目を果たしにくい状態となる、あるいは配偶者と不仲となる。そのため元々そういう姿の結婚（国際結婚・年齢差の大きい結婚など）に向いているともいえる。

堅実・蓄積 ⇒ 司禄星にはこの意味があるゆえに、司禄星中殺の現象はすぐには現れにくく、物事がある程度蓄積されてから出てくることになる。

人物 ⇒ 妻中殺

[禄存星・司禄星中殺] は財中殺などの意もある。

車騎星中殺

行動力 ⇒ 意図して行動するときにはぎこちなく、うまくいかない。逆に無心でいるときは超人的な行動力を出せる。そのためスポーツ選手・軍人・冒険家として大成できる。

決断力 ⇒ 意図して決断しようとするとき中殺現象が現れる。つまり、大事なところで迷いが多くなり、肝心なときに決断力が鈍ることになる。

人物 ⇒ ^{へんぶ}偏夫・男性中殺

牽牛星中殺

家庭 ⇒ 司禄星中殺とおなじ。

真面目 ⇒ 不満があっても、それを表面に出さず真面目に努めようとするが、不満が限界に達したときに、突然不満を外へ出す。家庭や仕事においても、はじめは体制に従うが、最終的には体制を変化させるか、または体制を裏切ることになる。

人物 ⇒ 夫中殺 ※ 車騎星・牽牛星中殺 = 名誉中殺

龍高星中殺

改革心 ⇒ 改革には創造と破壊が伴うものであるが、中殺されるため不自然な創造と破壊を繰り返す。

つまり、環境が安定してくるとそれを破壊する人となり、環境が不安定になると、それを安定させようと新しいことを創造しようとする。

〔環境安定⇒精神不安定〕 〔環境不安定⇒精神安定〕

人物 ⇒ 偏母・目上中殺

玉堂星中殺

知恵 ⇒ 知恵がまわるときと、まわらないときの差が大きい。知恵を働かそうとすると出なくなり、知恵を出そうとしないときのほうが知恵の働きがよい。

学問 ⇒ 主流でない学問、変わった分野の研究に向く。

人物 ⇒ 母中殺（親中殺）

貫索星中殺

十大主星の貫索星が中殺されるのを、貫索星中殺と
いいます。

07 頁に書かれているように、貫索星は頑固です。
貫索星の頑固は、何か一つのことをしようと思うと、
障害があってもそのことをやり通そうとします。
かたくなに意地を張るというのは、頑固ではありません。
それは貫索星の無い人がやるやり方です。

〔たとえば〕貫索星をもつ人が、学者でも、音楽家でも、
目的意識はなんでもよいのですが、目的を定め
たら、どんなことがあってもやり通そうとします。
ところが、貫索星が中殺されると、貫索星が不自然
になります。

本人は音楽家になろうという決意で、長い時間を費
やし、さまざまな方法を駆使して、やり通そうとし
ましたが、途中で挫折してしまい、ほかの目的に向
かおうとして、気持ちを変えるとかです。

そうしますと、この人の頑固さは変わりませんが、
この人のために協力して行こうとした人達は、本人
の目的が変わったので、この人に振り回されたこと

になります。

今までは、この道を行くといっていたのに、途中になってこっちだと言い出されたら、まわりの人たちは、そのために振り回されるわけです。

しかし、本人の頑固さは変わらずに、「私は私の道を行きます」と突っ張ります。

貫索星の本来の質としては、「私は音楽家の道を進みます」といったら、そこにどのような試練があっても、やり通してゆこうとします。

しかし、貫索星中殺の人は、目標を途中で変化したことに対して頑固さを発揮するという特徴があります。「私は私のやり方で方向転換して行く」という頑迷^{がんめい}さ、これは一貫性のない頑固さといえます。

初めから終わりまで、一つの考え・思いを貫き通すということではなくなります。

そのために、まわりの方は、振り回されるということが起こります。中殺を受けているために、いろいろな物事に対して、気が変わりやすいのです。

本人は、気持ちを変えようとして、変えているわけではないのですが、気を変えまいと、思えば思うほど変わってしまうということが起ります。
このような不自然な現象が起こします。

〔たとえば〕友達になろうと想うと、その思いが強ければ強いほど、途中でその人との付き合いに変化が生じます。そして、その人をものすごく恨むとか、悪口をいう、そのようなことを起こします。

「こういってはじめてたけど、それを変えただけ……」
と主張するわけです。

誰が何と言っても変えないとする姿勢は、人の提言や忠告を聞き入れない人だということです。

このような現象は、大運天中殺でも宿命天中殺でもおなじように出やすいのです。

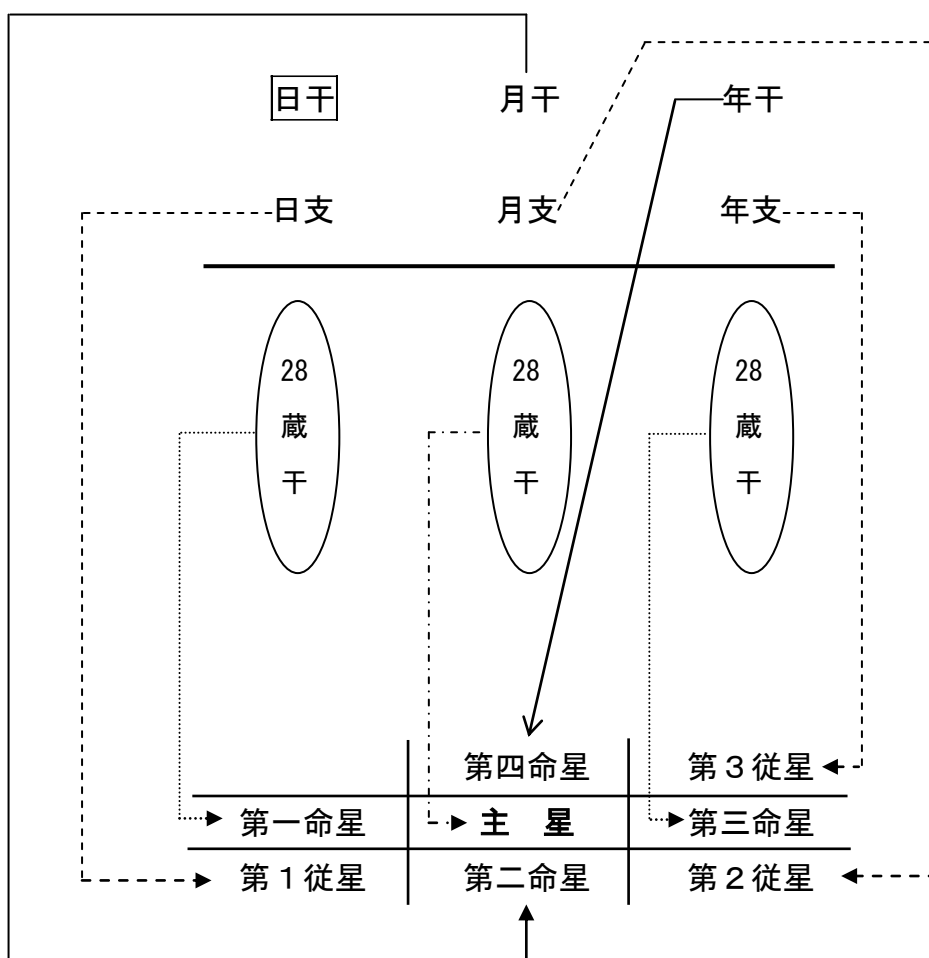
宿命中殺の場合は、一生涯そうなります。

主星の貫索星中殺が1番強い出方になるといえますが、どこにあっても似たり寄ったりに出方です。

人体図に貫索星が2つあって、2つとも貫索星中殺の場合は、その現象がより強く出ます。

〔たとえば〕日干支「丙子」の人は申酉天中殺です。場所はどこでもよいのですが、「丙申」か「丙酉」をもっていると、貫索星中殺になります。場所を問いかけていません。

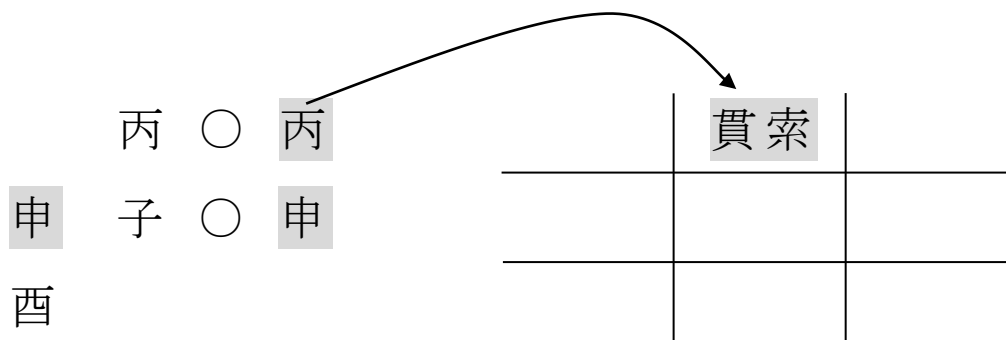
〔星の変換〕陰占から陽占



	年干	年支
日支の蔵干	月支の蔵干	年支の蔵干
日支	月干	月支

❖ 日干の「丙火」から、年干の「丙火」をみると、
 「貫索星」で第四命星にでます。

宿命(1) 貫索星中殺



場所には場所それぞれの意味がありますが、十大主星中殺の場合は、場所は一切問いかけていません。「このようにでてきます」といっているだけです。

☞ 「生年中殺」の場合には、初年期の場所の星全部が中殺を受けるということです。

宿命(2) 生年中殺

	第四命星	第3従星
第一命星	主星	第三命星
第1従星	第二命星	第2従星

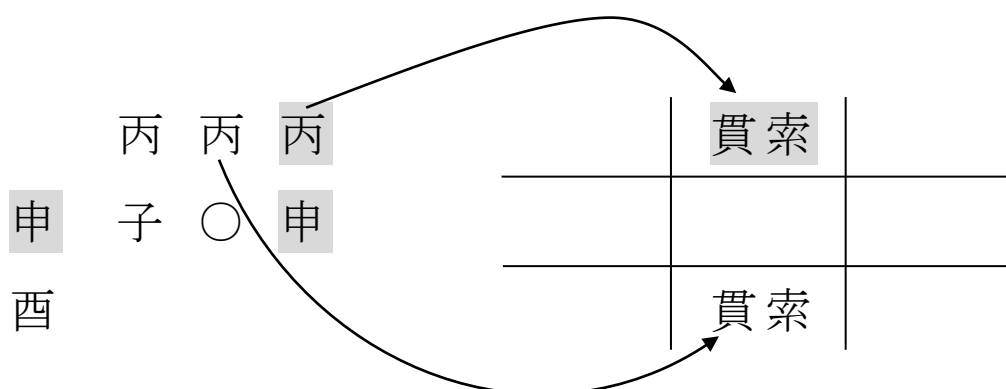
しかし、十大主星の貫索星中殺の場合は、初年期だけではありません。一生中殺です。

〔貫索星〕には、人物では兄弟・友人の意味があります。兄弟・友人中殺ということは、兄弟・友人に頼れないという現象が起こります。

兄弟・友人と不自然・不完全な関係になります。

- ❖ 日干「丙火」から、年干「丙火」をみると、貫索星で第四命星にでます。
- ❖ 日干の「丙火」から、月干の「丙火」をみると、貫索星で第二命星にでます。

宿命(3) 貫索星中殺



月干にも丙火があるという場合、丙火でも丁火でもおなじですが、ここでは貫索星の話をしていきます。

そうしますと、第四命星の貫索星は中殺されていますが、第二命星の貫索星は中殺されていないから、

〔縁のある兄弟〕と〔縁のうすい兄弟〕がいます。

という判断するわけです。

宿命(3)貫索星中殺 の場合は、中殺されている兄弟と、中殺されていない兄弟がいる。と観るわけです。

〔たとえば〕兄の太郎と弟の次郎の兄弟がいます。太郎は貫索星中殺をもっていますが、次郎は貫索星中殺をもっていません。そうしますと、兄弟でありながら、お互いに相手を理解できないのです。お互いに「変な奴」だとおもうわけです。

「変な奴」だと思われなくなかったら、貫索星中殺のもともとの意味を探ればよいわけです。

(とは言っても、算命学を知らなければ理解できないでしょう) 貫索星中殺をもつ太郎は〔弟・次郎との縁が薄くて当たり前だ〕という感覚をもって、弟と接しないといけないのです。それが受け身の姿です。

一生受け身というのは、全てに対してではなくて、中殺の対象が〔兄弟〕とでたら、兄弟に対して受け身ですから、ここでは〔弟・次郎〕の言うことに従えばよいのです。

兄であっても、太郎は「自分はこう思うけど……」と、言わないことです。

「自分はこうしたい……」と言わないのです。受身の姿は、自分を出す必要がないのです。

太郎が自分を押しだしたら、その途端に兄弟仲が悪くなります。

それゆえに、おなじ貫索星をもっている、中殺をもつ人と、もたない人がいたら、中殺をもたない人が、主になって、兄弟間の事柄を取りまとめればよいわけです。

〔たとえば〕冠婚葬祭の場合などで、兄弟のなかで、誰の意見を重視すれば、まとまるのかということにもなります。

結婚でいえば、貫索星中殺の人は、考えをパッと変えたり、途中で方向転換をしたり、なにか問題があると、意地を張り通して、意固地にもなりますから結婚相手は苦勞をします。

貫索星中殺の人と結婚すると振りまわされます。

その意味では、振り回されても大丈夫な人と結婚するのが相性です。

それはおなじ中殺の人、あるいは、身強の人なら振りまわされてもエネルギーがあります。

身弱だと振り回されたら大変です。

身弱の人は最短距離をいかないと駄目なのです。

人生の目的があれば、できるだけ真っ直ぐに進んで

行くことです。

さまざまな進路があるでしょうが、身弱はどんなに遠回りしても、一回しか行けません。

エネルギーが弱いのでやり直しがきかないのです。

身強の場合は、交通が渋滞していたら、遠回りして別の道に行くだけのエネルギーをもっています。

貫索星には独立独歩の質があります。

しかし、貫索星中殺は独立独歩の生き方をすると、どうしても波瀾が大きくなります。

自分勝手にあっちへ行ったり、こっちに行ったりという生き方をすると、どうしても波乱・動乱は多くなりますよね。

それゆえに、大勢のところに居たほうがよいのです。決め事の場合でも、多数決とかであれば、独善的になりやすい中殺を緩和してくれるといえます。

石門星中殺

石門星は人物として、兄弟・友人中殺です。
貫索星中殺・石門星中殺は、兄弟・友人に頼れない
という意味があります。

協調・協和という部分は石門星の特徴で、まわりと
集団をつくる質を有しますから、組織づくりが上手
です。と説明しました。

しかし、石門星中殺は、その質が中殺を受けますの
で、自分の望む方向に物事が進まなくなります。

“交際したい”と想う人が離れていってしまうとか、
交際したくない人に頼られるとか、自分が求めない
のに、人が寄って来るといったことが起こります。
石門星本来の質が不自然・不完全になるためです。

協調・協和というのは、人間関係で構築されていま
す。それが思いどおりにならないのです。

協調したいと願っても、想っても、思いどおりにな
らないということが起こります。

それゆえに〔想わない・思わない〕ことです。

どうしても、人間関係で苦勞しますから、それらの

事柄に思いわずらわないことです。

あるいは「人間関係で苦勞するのは当然だ……」という心持ちで接してゆかないといけません。

なぜかといえ、中殺を受けていても、石門星の質は協調・協和の星だからです。

人間関係で苦勞するわけですから、幅広い人間関係をもたないで、付き合いの範囲を狭くすれば、苦勞は軽減します。

しかし、石門星本来の質を發揮できなくなりますから、石門星としての質を失います。

⇒ 中殺されている不自然な石門星を活かさなくてはいけないわけです。

不自然な状態で石門星を活かすには、対人関係における意思の働き〔好き嫌い、選り好み・差別とか〕とかをやめる・停止することで、大勢の人と付き合いえるという状況がでて来ることがあります。

中殺はふつうではない異常な状況・状態ですから、範囲がずっと拡大するという良さにつながるかも知れません。自分の意志を強く押し出すと、どうしても中殺現象が激しくでてきて不完全になります。

それゆえに、人間関係で苦勞・悩むのは当たり前だと、開き直って生きることです。

兄弟・友人と縁が薄い、中殺されているということは、周囲の人間関係を頼らなくても、生きて行くことができる^{たくま}逞しい人でもあるのです。

協調・協和が不自然になりという意味では“人嫌い”になりやすいともいえますので、それは自身で乗り越えていくことになります。

鳳閣星中殺

鳳閣星中殺は、「のんびり」が中殺されます。

それはどういうことなのか考えますと、落ちつかなくてはいけない、と思うときに落ちつけないのです。

〔たとえば〕人々の前で話さなくてはいけないときには、落ちついて、人様が理解できるように伝えたいと思うわけです。

そうすると“あがってしまう”という現象がでてきます。緊張しやすくなるもいえます。

大事なこと、大切な仕事だから落ち着かないと……

そう思うと気持ちがあたかぶってしまう状態です。

そこから解放されるには“失敗していい”その心境が必要です。

そして、どん底に追い込まれると、開き直ることができる人でもあるのです。

それゆえに、中途半端は良くありません。

“^ば^な場慣れ”という言葉があるように、どんなに大勢の前でも、馴れていれば自然にできるわけですから、緊張することはないです。場馴れが必要な人です。

それゆえに、自分を追い込まれた心の状態に追い詰める訓練を重ねる必要があります。

普通の人には土壇場で、“もう駄目だ”となると、気持ちの張りを失って、開き直りができないのです。

しかし、鳳閣星中殺の人には土壇場になると、逃れられないと覚悟して、ふてぶてしくなれる人です。

緊張し過ぎた状態になると、落ちつくという事が起ります。

〔たとえば〕事故に遭って、緊急事態になると、冷静になって身体が動くというような現象がでてきます。そのときの自分を振り返ると、「自分がなんであのような適切な処置ができたのだろう……」と思うほど、ありのままに対応して、動けた状態が起ります。

土壇場に追い込まれると強い人です。

鳳閣星中殺は「駄目でもともと」という心の状態になると強いです。

鳳閣星は寿命の星という意味があります。

それゆえに、寿命中殺といえます。

寿命中殺ですから、健康状態が不自然になります。

(長生き出来ない、と言っているのではありません)

ふつうは健康に気をつかうことで、病気を回避するわけですが、しかし、健康が不自然・不完全になって

いるわけですから、健康に留意^{りゅうい}して、気をつかえば

つかうほど、病気になるということが起きます。

〔たとえば〕健康維持のためにジョギングをしたりしていると、家にもどって気持ちが緩^{ゆる}むとポックリ死んでしまうとかです。

あるいは、健康食品などに気をつかって摂取したりしていると病気になるとかです。

それは健康への関心が不自然になっているために、必要なものを摂取せずに、不必要なものを摂取するとか、自分の体質に合わない健康食品を摂取してしまうとかです。それであるなら、自然の有機栽培の食物を食することのほうが有意義です。そこが原点だからです。

人物は、子供・部下（目下）という意味がありますから、目下中殺という意味で、子供・部下に頼れない人です。子供・部下に縁の薄い人です。

陰占を勉強すると、人物をいろいろ探りますから、人体図には鳳閣星が一つしか出ていなくても……、陰占の場合は、そのほかにも子供がいるという場合があります。

陰占を学ぶことで、その意味を理解できます。

調舒星中殺

調舒星中殺の人物は子供・目下・女性でその人達が中殺を受けます。鳳閣星中殺・調舒星中殺は、寿命中殺です。

鳳閣星中殺・調舒星中殺をもつ人は、健康にまったく気をつかわないということではありません。

過度に気をつかう必要はないということです。

鳳閣星中殺・調舒星中殺をもつ人は、神経質になるからです。つまり、健康ということでは、そのことに対して過敏になる傾向をもちます。

それゆえ、自分の身体に合わない健康食品を購入して摂取したりするわけです。そのために、かえって不健康の元をつくりますよ、という意味合いです

日本の健康食品はアメリカの健康食品と比較して、効力に大きな差があると思っています。米国で、ハーブ、ビタミン・ミネラルなどサプリメントの勉強をした時期がありました。

米国の書店には日本では太刀打ちできないほど、健康食品に関する書物があり、その情報量は豊富です。大手自然食品店には多数の製品があり、価格もリーズナブルです。私は現在も取り寄せていろいろ摂取しています。失礼しました。話をもどします。

〔調舒星〕は、本心を理解されにくい星です。伝達本能の陰ということもあり、伝達が間接的になります。そこに不自然な状態が出てきます。また、空想・夢想の質がありますので、心の中にはいろいろ思い考えますが、考えた部分の経過（中間）を、相手にいわない（説明しない）ために不自然な状態がつくられてしまいます。つまり、はじめと結果だけを言って、中間の経緯けいゐがないわけです。その中間部分は空想領域になってしまっていると言えるでしょう。そのことに加えて、中殺を受けることで、その部分が、異常に膨ふくらむと考えてください。

〔たとえば〕隣人りんじんに自転車を貸してあげたとします。自転車を借りた隣人がうっかりして、自分の家の前に自転車を止めたままにしてしまったとき、そこから調舒星中殺の独特な空想が膨張ぼうちようし始めます。それは「自転車を返してくれなかった……」ことに、あたかも推理小説もどきに膨らんでゆくのです。隣家の人が段々と大悪人になってしまおうとか、悪事を重ねているかのように、空想の広がりを見せます。「自転車はそちらの家の前に置いておきましょうか？」と

いわれたときに「どっちでもいいわ」と答えたのを忘れてしまったのかわかりませんが、相手を悪者的にしてしまうのです。

それが受け入れられない状態が続くと、そのことで精神を病んでノイローゼという状態になりやすいのです。

それゆえに、SF作家とか、精神世界に向かうと、見事な星です。

手塚治虫氏の人体図は、鳳閣星1つ、調舒星は3つあります。鳳閣星中殺も調舒星中殺もないです。

* 手塚治虫 1928(s3)-11-3 1989-2-9 [60歳没]

	丁	壬	戊			調舒星	天堂星	2 癸亥
寅	未	戌	辰	戌	鳳閣星	調舒星	調舒星	12 甲子
卯	丁	辛	乙	亥	天南星	牽牛星	天印星	22 乙丑
	乙	丁	癸					32 丙寅
	己	戊	戊					42 丁卯
								52 戊辰
								62 己巳

手塚治虫氏の宿命には、陰占の宿命殺はないです。

〔たとえば〕調舒星中殺があるのなら、表現が不自然な作家になればよいのです。

現実的でない分野がよいですね。

あるいは、人体図に〔水火の激突〕があり、火性の鳳閣星・調舒星が中殺されている状態のときには、〔水不の激突〕が弱まるという話もあるのですが、激しい現象となって出るときもあります。

つまり、七殺で抑止されているときに、刺激されることで、一気に破裂するようなこともあります。

そのときは、現象は激しさを伴って出てきます。

鳳閣星中殺は穏やかそうに見えますが、穏やかではありません。ハッキリしています。

鳳閣星には直接的表現という意味がありましたが、感情を出さないつもりでいると、感情が出てしまう。目立とうと想うと目立たずに、目立つまいと思うと目立ってしまうということが起こります。

〔調舒星〕にも、この質がありますが、調舒星中殺の人の場合は、ペラペラとお喋りになる人がいます。お喋りになるときは、皮肉をいうとか、^や擲^ゆ搯すると

かもありますが、そのようなときは、お腹に秘めた企みがないときです。

心の中にはなんのわだかまりもないのです。

反対に、黙り込んでいるときは、お腹の中には……
なにか発散したいことがあるわけです。

調舒星中殺の人が文句を言わないから、満足している
と思ったら間違いです。

本心が伝わって来ない人、本心のわからない人です。
おとなしいときほうが、胸内にいろいろな強い思い
があるのだということを理解しないといけません。

調舒星中殺の人が、自分の気が済むと言わんばかり
に自分のことを話すときは、まず面白くありません。
自身に関するのではなくて、他人の話をするとき
は、とても面白い内容になる特徴があります。

自分の事柄のときには、どうしても感情が入り込ん
でしまい面白くないのです。

干支における“伝達”は〔自分が楽しかった〕など
の事象を伝えることであり、他人の事柄の意味では
ないのです。それゆえに、「日干」の自分から生じて
いくものが伝達になります。

〔調舒星〕は孤独の星です。その特徴として自殺の可能性が1番強い星です。

調舒星中殺は、孤独が中殺されますから、自殺するときは孤独でない状態をつくらうとします。

それは他人を巻き込む死に方になります。

何年も前ですが、池袋の西部百貨店の屋上から飛び降りた女性がいました。

その下に道路を歩いていた通行人がいて、その男性が巻き添えに遭ったわけですが、そのような死に方です。

彼女が調舒星中殺かどうかわかりませんが、他人を巻き込む死に方というのは、孤独な死ではなくなります。

どなたにも平等に天中殺はまわって来ます。

どなたにも天中殺はまわって来ますが、調舒星中殺のときはそのようになりやすいといえます。

必ずなる、ということではないですよ。

調舒星中殺であっても、自分の宿命どおりに生きていれば、自殺することはないわけです。

「私死にたいわ」などと騒いでいるときは、本心なのでしょうが大丈夫です。

覚悟が決まってしまうと黙り込んでしまいます。

調舒星中殺の場合、そうなると要注意です。

調舒星はもともと孤独の星です。それが不自然になるので死ぬときには、孤独で無い状態をつくろうとするため、他人を巻き込むということが起こります。自殺しなくても、交通事故で他人を巻き込んでしまいう死に方も含まれます。本人は死のうと思っていなくても、そのようなことも起こります。

これらは後天運で調舒星中殺がまわって来てもおなじです。

調舒星中殺はそのような可能性があります。

☞ 宿命^{中殺}をもっていて、それを消化すれば……、調舒星中殺がまわってきても、そうはなりません。宿命^{中殺}を消化していくことで、調舒星中殺がもつ良い面を活かして人生を歩みます。

このことは互いに反対の關係に位置することですから、「えっ……」とおもうでしょう。しかし、皆様が現在、此の世に生存しているということは、ご自分

宿命における人生の過程を、たくみに操作して来ているわけです。そうでなければ、生きていないと考えています。

「星を消化する」とよくいいますが、消化というのは、その星の意味合いをつかっているということです。なにか不明であれば、まず人体図の知恵の場所に載っている星の意味合いをつかいます。

知恵の場所〔第四命星〕に車騎星が載っていたら、行動しているなかで知恵が働きます。

自身が動かずにとどまっていると、知恵が働かず、忙しく行動するなかで、頭がよく回転することになります。それゆえに、勉強するときでも、じっと机に向かうだけでなく、身体を動かすことも必要なのです。

学者でもジョギングしているときに、1番頭が働いてくるという人もいます。

散歩しているときとか、からだを動かしているときに、インスピレーションが湧いてくるという人は良くいます。

そのようにして、つかうとよいわけです。

＊ アンドレアス・ルビッツ 1987-12-18 [27歳没]

	辛	壬	丁			車騎星	天馳星	4	辛亥
辰	丑	子	卯	戌	貫索星	鳳閣星	祿存星	14	庚戌
巳	癸			亥	天印星	調舒星	天貴星	24	己酉
	辛							34	戊申
	己	癸	乙					44	丁未

2015-3-24「ジャーマンウイングス墜落事故」で150名が犠牲になっています。9525便の副操縦士・アンドレアス・ルビッツは、2013年「癸巳」ジャーマンウイングスに入社してパイロットになっています。

2013年「癸巳」は鳳閣星中殺の年です。

その前年2012年は「壬辰」で調舒星中殺の年です。

この宿命はさまざまに読めますが、算命学的にはこれらの中殺が関係していないとは言い切れないのです。

禄存星中殺

禄存星は人物として「父」という意味があります。
禄存星中殺は父親中殺です。父と縁が薄いです。
父親という存在は、大黒柱でお金を稼^{かせ}いでくれる人
という意もあります。
子供が生まれて、子供が禄存星中殺をもっていれば、
父親中殺の子供になります。
ということは、その子供が生まれたことで、父親が
不自然な状態になります。そうすると、一家が苦勞
します。それを“家系の衰え”と考えています。

一家の大黒柱が不自然な状態になるのは、一家全体
が不自然な状態、もしかしたら路頭に迷う状態が起
きるかもしれません。
その意味で、禄存星中殺をもつ子供は、家族の運氣
が衰えるときに生まれます。

占うときには、禄存星中殺をもっている本人から、
親を占うことにもなりますが、禄存星中殺の子供を
生んだ親のほうに責任があるのです。禄存星中殺を
もつ子供が悪いという考え方をしないことです。

親の運が落ちるときに、禄存星中殺の子供が生まれて来るということです。

「父との縁が薄い」ということは、父の仕事が駄目になったのか、あるいは病気で仕事が出来ないという状態を含めてです。

つまり、禄存星中殺をもつ子供が、父親の運勢が駄目な状態をつくります。それによって、父親の運が落ちるのは、禄存星中殺をもつ子供にとって、宿命どおりですから、本人は将来成功します。

☞ 禄存星には「財」という意味があります。

禄存星中殺をもつ子供は、財（お金）で苦勞するということなのです。

父親の運が落ちて、子供がお金で苦勞すると「禄存星中殺の子供は将来成功します」という話はできません。

もし、こういう宿命で生まれながら、父親の運勢が落ちないと、禄存星中殺をもつ人の運が落ちます。父の運勢が落ちずに、お金でも苦勞しなかった場合には、禄存星中殺をもつ人の運勢が駄目になるということなのです。

☞ 禄存星は愛情の星ですから、中殺には「愛情中殺」という意味があります。

禄存星は魅力本能なので、まわりの人を惹きつけるという意味があります。

男と女ということでは……中殺で魅力が意図しない状態になりますから、好きでない人を惹きつけるという状態を起こしてしまいます。これは好きな人に誤解されるということです。自分がその人を好きだとなると、その人にぎこちなくなってしまうと、自然に振る舞うことができなくなります。そうすると、相手の人は、自分のことを好きではないと誤解します。

禄存星中殺は、好きでない人には自然に振る舞えるので、禄存星の意味が素直に伝わりますから、相手は自分に好意があると考えます。そうすると、好きでもない人から好かれるという状態がつけられます。

好きな人には、わざとつけんどんな態度をとってみたい、意地悪くしてみたいということもあるわけです。このことは子供にもあることですが、大人になるとそれが強く出てきます。そのような状態を、自らつくってしまうために、相手に誤解されてしまいます。

それがもとで、好きな人と結婚出来ないということになれば、その理由は自分に原因があるわけです。

司禄星中殺

司禄星は家庭という意味があります。

司禄星中殺は家庭を不安定にする「家庭中殺」です。

司禄星には堅実・蓄積という意味もあります。

それゆえに、物事がある程度、蓄積されてきた状態になってから不自然になります。

禄存星中殺・司禄星中殺には「財中殺」の意味があります。

司禄星には「妻」という意味があり、「妻中殺」ですが、家庭の意味もあるわけです。

家庭は夫婦で作りますから、男性にとっては妻ですが、女性にとっては夫という意味にもなります。

それゆえに『配偶者中殺』といえば適切でしょう。

配偶者ということは、夫でも妻でも良いわけですが、ただし、これは陰占の観方での話です。

本来、司禄星は妻としか取れませんが、それを少し拡大解釈していただいて、配偶者中殺でも良いということですか。どういうことなのかといいますと……

配偶者中殺は配偶者を頼れない状況がつくられます。配偶者を頼れないというのは、夫婦仲が悪い状態がつくられてしまうとか、妻に頼れないというのは、妻が病弱、遊び歩いている妻とかいうことです。この現象が出るには時間がかかりますが、具体的にどのくらいかかるかは、正確に計れない^{はか}のです。5年、10年と時間をかけて出てきます。

☞ 配偶者中殺という意味では、結婚運が悪いということになります。

ゆえに、結婚運の悪いやり方をすれば良いわけです。それは国際結婚とか、10歳以上の年齢差がある結婚とか、再婚者との結婚でも良いし、子連れならなおさら良いとかです。このことは学ぶ機会があります。これらはいずれも“感覚の違う人との結婚”という意味が横たわっています。

そして、もう一つは、宿命に司禄星中殺をもっている人と結婚するとか、牽牛星中殺をもっている人と結婚するとかです。

より広い解釈をすると、宿命^{中殺}同志の結婚がよいといえます。

司禄星中殺（妻中殺）の人が、牽牛星中殺（夫中殺）をもつ人と結婚すると、悪い現象は出てきません。

「財中殺」は禄存星中殺も司禄星中殺もおなじです。お金が不自然だから、貧乏するということではありません。日常でつかうお金を『財』とはいいません。この場合の『財』というのは、貯め込むようなお金をいうのです。それが不自然になりますから、自分の思うままにならないお金ということが起こります。自分の思い通りにならない『財』、つまり財産を自分の思ったとおりにできません。ところが、そのように自分の思い通りにはできない財に縁があるということです。

〔たとえば〕一生懸命仕事をしてお金を貯めました。それをつかおうとしていたのに死んでしまった。あるいは、自分のお金なのに、誰かに財布の紐を握られている状態とかです。自分の自由にならない『財』ですから、思いどおりにしようとしなければよいわけです。自分の稼いだお金であっても、妻の名義にしてしまうとかです。そうすれば自分の思うままにならなくなります。

あるいは、隠し財産（自由につかうことのできない財）であれば、^{おおやけ}公につかうことはできませんね。

このように自分の思うままにならない財を、脱税するのがとても^{じょうず}上手なのは、司禄星中殺をもつ人です。脱税するとは言い切れませんが、そのように対処する考え、やり方が^{たく}巧みなのです。

日常のなかには、妻にわからないようにへそくりをするのは上手といえます。

車騎星中殺

車騎星は偏夫^{へんぶ}の意味をもちます。

偏夫は夫以外の男という意味ですが、夫という意味も含んでいます。

占うとき、女性の宿命に、この星しかない場合は、夫としてもつかいます。つまり、牽牛星がなくて、車騎星しかなければ、牽牛星（夫の星）の代わりに、女性の男、あるいは夫として観ることもあります。

☞ 女性として、偏夫（愛人）のような男を頼れますか、つまり頼れない男と縁があるわけです。

しっかりした男性に頼らないで、しっかりしていない男を頼ろうとすれば、結婚を誤りやすいのです。

だらしない男性を好きになるとか、関係を結べば、まわりから反対されるでしょう。

恋愛で悩み苦しむ人ともいえます。

☞ 男性が車騎星中殺をもった場合は、女性に対して上記とおなじな現象をだします。

結婚に際して、妻として相応^{ふさわ}しくない女性を好きになるということが起こります。

車騎星は男性にとって、仕事という意味がありますから、仕事^{中殺}ということになります。

車騎星は行動の星ですから、仕事をしているときの決断力に見事さがあります。

ところが……その部分が中殺されますから、肝心なとき、大事なときに、決断することができなくなります。

“重大な局面”のときに、現象が起こりますから、決断が^{みだ}乱れます。よくよく考えて判断するために、心を動かしても、決断できずに迷ってしまうという事態になります。

車騎星は^{とうた}淘汰という意味も備えていますから、普段は見事に決断してゆきます。しかし中殺されていると〔大きな山場〕というときに不自然になってしまい^{こんめい}・^{こんめい}混迷・困迷が起こります。

宿命^{中殺}をもつ人にいえるのですが、場馴れの必要があります。

参考・淘汰〔条件に適応するものを残存し、不用なものを除去〕

参考・混迷〔混乱して見通しが定まらない〕

参考・困迷〔迷いくるしむ〕

車騎星の行動を中殺するという意味では、中殺そのものが正常でない異常ですから、^{なみはず}並外れた行動力を出せるということが起こります。

ほかとは異なる^{けたちが}桁違いの^{はたら}働き出せる世界に向いている人です。

オリンピックで優勝すると決めたら、異常でないと無理ですから、^{けっしゅつ}傑出したチカラを出して成す物事に向きます。

参考・傑出〔とびぬけてすぐれている〕

特攻軍人、スポーツ界、冒険家に向く人といえます。

車騎星中殺には、名誉中殺という意味もあります。

〔車騎星・牽牛星〕は名誉・名声の星ですが、そこが不自然になります。この試合で勝ったら金メダルだとか、世界1になれるとか、思った途端に負けてしまう、ということがあります。

それゆえに、無心でないと駄目といえます。

車騎星中殺で、見事な冒険家やスポーツマンになれるには、勝ち負けにこだわらない^{きこん}気塊の備えが必要であると考えています。

エベレスト単独登頂に成功したら、評価・名声が上がるとか、雑多なよけいな思考で^{いど}挑むと、あと一步

という状況で、登頂成功から見放されてしまう人でもあると考えています。

競技の試合でも、もうここで勝てると想うと、逆転されるということが起こるのです。

車騎星中殺をもつ人がなにかに挑むときは、我が身を捨てる一念で、無心にチカラを絞^{しぼ}りきることです。ただひたすら、一心にその道に打ち込む姿がよいのです。そのときは見事なチカラを発揮します。

このことは仕事でもおなじです。

大きな仕事で業績が認められる機会であるとしみます。気負わないで、いつもどおりに淡々と仕事に取り組めば、見事な働き方になります。

しかし、認められようと意識してしまうと、不自然になります。

牽牛星中殺

車騎星で説明しましたが、名誉についての中殺現象は、牽牛星中殺もまったくおなじです。

車騎星は単独行動・個人行動の星ですが、牽牛星は全体として統一を保っている集団の行動です。

集団の組織や社会は、規律を重んじなければならぬので、真面目でないと勤まらない面があります。牽牛星の質は真面目なので、どんなに不満があってもその仕事に取り組みます。

⇒ 人間社会で生きていく過程においては、どなたでも不満があるでしょう。

ところが、この人は真面目なので、その不満をださずに仕事に打ち込んで行くわけです。

その姿は仕事に満足して懸命けんめいにやっているように、まわりからは見えるわけです。

本人に不満が内在されていても、真面目なので不満を態度などに出さないため、その姿をみた限りでは、周囲にわからないわけです。

しかし、胸裏きょうりにもつ不満がつきつきと重なって爆発

すれば、仕事を突然辞める。となるわけです。

⇒ 牽牛星は、夫の意味がありますので、家庭中殺という意味合いがあります。

女性でも、男性でも、家庭という意味から牽牛星を「夫」あるいは「妻」と解釈してください。

そして、家庭中殺の内容を広げて考えてください。

結婚生活なら、妻にとって家庭というのは組織であり体制です。家庭を維持するのが仕事です。

その妻が突然「離婚・別れます」といい出します。

体制そのもの、家庭そのものを破壊しようとするわけですね。

牽牛星の女性は、家庭に沈殿ちんでんしている不満を一切言わず、夫や家族のためにつくします。

なにかしらの不満はあるでしょうに、口に出さずに蓄積ふんしゅつされていた不満が噴出ちんします。

〔たとえば〕夫が退職したときに、突然、怒りをぶつけるかのように「退職金を半分よこさない」といって、離婚を迫る女性がいたとすれば、まわりは、「えっ」と、驚きのまなざしを向けるでしょう。

現在^{いま}まで、良き母・良き妻であったのにパッと豹^{ひょう}変^{へん}して「離婚する」といいだしたわけです。

会社などの組織においても、不満が積み上げられて、破壊するような事態を招きますから、体制に対する裏切り者、そのような存在になる場合もあります。

☞ どのように生きれば良いのでしょうか。

不満があるときは、言葉にだしていうことです。

自分が言わないことに問題があるからです。

その意味では、おなじ中殺をもっている人なら……

何も言わなくても、心境をわかってくれます。

〔たとえば〕上司や同僚が牽牛星中殺をもつ人、あるいは、司禄星中殺をもつ人なら、相手の気持ちを良く理解できますので、不満がつのは少なくなります。

宿命^{しゅくめい}中殺をもっている人であれば、良く理解してくれると考えてください。

中殺をもつ人の世界を、中殺をもたない人が理解することはできません。

世界が違うのです。

〔たとえば〕 Aさんは宿命中殺をもっています。

Bさんは宿命中殺をもっていません。

このような2人がいます。

でも「Bさんに天中殺がまわってきました」となれば、おなじ世界に入ったわけです。

そのときなら、Bさんは、Aさんを理解できます。

すべてとは言い切れませんが、理解できるようになります。

☞ 後天運天中殺は、60年間経過すると、天中殺を全て経験することになります。

それゆえに、算命学は人間性が成熟せいじゆくするはずだと考えています。

参考・成熟〔人間の体や心が十分に成育すること〕

龍高星中殺

龍高星は人物で「偏母＝育ての親」という意味があります。

それゆえに、年代でいえば、目上の人になります。親や姉妹でも、目上の立場になる人が相当します。兄・弟でも自分を育ててくれた人は偏母に入ります。

龍高星中殺は、その関係が不自然になるわけですから「目上中殺」です。目上を頼ろうとしません。自分が中殺している人物を頼れないから、頼ろうとしないわけですが、目上から見ると「生意気な」ということにもなります。

可愛げがないとも見られます。

上司・目上から見て、可愛いと思う部下・目下というのは、甘えて来るでしょうが、龍高星中殺の人は甘えません。

その意味では、まわりからはたくま逞しく見えます。

☞ 龍高星は改革という意味もありました。

改革が中殺されます。改革という意味では、改めかえることなので、そこに破壊と創造が存在します。

新しいものをつくりだすことは、古いものを壊わさないとできません。

龍高星には、破壊と創造が絶えずつきまといまいます。

古いものを壊して、新しいものをつくりだす段階で
さまざまなおも^{おも}い・念^{ねん}がうごきます。

改革が中殺を受けて不自然になりますから、壊すべきときにつくりだして、つくるべきときに壊すという現象が起こります。

〔たとえば〕皆がやろうというときに、嫌だという人がいます。

皆が嫌だというときに、やろうという人がいます。
そのようなへそ曲がりな面があります。

そういう性質をもつと、当然、波瀾に飛んだ人生を送ることにもなります。

龍高星中殺は、運勢の昇り下がりの波が激しいといえますが、環境が不安定なほうが、やる気をだして、実力の発揮できる人です。

環境が安定すると、精神不安定になり、環境が不安定だと精神が安定します。

これが特徴なので、不安定な環境が向いています。

玉堂星中殺

玉堂星は母親（実母）の星です。

玉堂星中殺は両親を意味しますから親中殺です。

そして、目上中殺といえます。

龍高星とおなじ知恵の星ですから、知恵が不自然になります。

〔たとえば〕良い考えをひねりだそうとすると出てきません。反対に、何の気なしに考えていると、良いアイデアが出てくるのです。

学校で、成績を上げようと一生懸命に勉強していると成績が上がらないのです。

成績を上げようと思わないで勉強していると、成績が上がります。

数学が好きとなれば、自分はそれが好きだから熱心に学ぶというのは、成績を上げようと意識していないでしょう。それが時代小説でもよいのです。

時代小説が好きで読んでいて「将来は作家がいい」ということで読んでいるうちに、さまざまな言葉の使い方、文字の使い方、文脈の流れ、キャラクター

の配置などを意識して読むようになるわけです。

龍高星も玉堂星も、自分の好きな学問をすれば良いということです。

玉堂星は保守的な知恵ですから、一般的な学問に対して興味をもつ人です。

ところが、その部分が不自然になりますので、一般的な学問に興味を示さなくなります。

〔たとえば〕時代小説を好んで読んでいたのに、それとは異質の世界、ファンタジーとか、霊的な書物とかにのめり込んで、それらを合体させて、だれも手をつけていないような分野を開拓したくなったりもするわけです。

主流派でない学問・作風といってもよいでしょう。

玉堂星中殺の人は、皆がこういっているとなると、それに反論を唱えたいくなる人です。

学者や研究者になる場合には、正統ではない異端的な立場になるかも知れません。

そのような意味合いがあります。

⇒ 十大主星のそれぞれの星に、ご説明してきた意味合いがあります。

実際に占いをするときには、その意味合いを、鑑定の中身に沿って当て嵌めてゆきます。

しかし、一人一人違う現象をもっています。

それら内容に、各星の意味をうまく適合させなければいけません。

〔たとえば〕お客様が玉堂星中殺なら、玉堂星中殺の意味合いを曲げないようにして、相手に伝えるということが必要です。

鑑定に訪れるお客様はいろいろです。

占う側にも、占うときのやり方・個性が存在します。お客様のご要望に沿って占うわけですが、固定観念をもたずに、星がもつ意味を壊すことなく、さまざまな観点から、星をつかってゆくことが大切です。

【初年】 60回目【天中殺論(6)】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】 61回目【天中殺論(7)】 です。